

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和06年03月12日

計画の名称	都市基盤となる骨格道路等整備（2期）											
計画の期間	平成28年度～令和02年度（5年間）										重点配分対象の該当	
交付対象	広島市											
計画の目標	広島都市圏における都市基盤となる骨格道路の整備を行い、都心及び拠点地区相互を連絡し、都市内交通の円滑化や都市の防災機能の向上を図ることにより、快適で安全な市街地形成を促進する。											
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	5,148	A	5,148	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0 %

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H26末)	中間目標値 (H30末)	最終目標値 (H32末)
1	拠点間の所要時間を6分短縮させる。 拠点間の所要時間 (拠点間の所要時間) = (古市地区から口田地区までの平均所要時間) + (中山地区から戸坂地区までの平均所要時間)	24分	22分	18分
2	地域における交通事故件数を現況より減少させる。 地域における交通事故件数 (地域における交通事故件数) = (中筋地区の年間の交通事故件数) + (温品地区の年間の交通事故件数)	88件	88件	88件

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
定量的指標「地域における交通事故件数」の中間目標値と最終目標値は、現況より減少としている。														

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H28	H29	H30	H31	R02			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-001	街路	一般	広島市	直接	広島市	S街路	改築	中筋温品線	道路改良 L=2.1km	広島市						3,578	-	
	A01-002	街路	一般	広島市	直接	広島市	S街路	改築	矢賀大州線ほか1路線	道路改良 L=1.0km	広島市						277	-	
	A01-003	街路	一般	広島市	直接	広島市	S街路	改築	吉島観音線ほか1路線	道路改良 L=1.2km	広島市						650	-	
	A01-004	街路	一般	広島市	直接	広島市	S街路	改築	段原蟹屋線ほか1路線	道路改良 L=0.6km	広島市						448	-	
	A01-005	街路	一般	広島市	直接	広島市	S街路	改築	長束八木線(3工区)	道路改良 L=0.6km	広島市						185	-	
	A01-006	街路	一般	広島市	直接	広島市	S街路	改築	長束八木線(4工区)	道路改良 L=0.5km	広島市						10	-	
												小計						5,148	
											合計						5,148		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制 道路交通局道路部街路課で評価を実施	事後評価の実施時期 令和6年2月
	公表の方法 広島市ホームページに掲載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	暫定整備を行うことで地域における交通事故件数は大幅に減少させることができた。一方で所要時間については、一定の短縮は図れたが、現時点で未供用の区間があるため目標値までは達成できなかった。引き続き、中筋温品線（1工区）の全線供用に向けて事業を推進することでさらなる効果の発現が期待される。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
<p>要素事業の内、長束八木線（3工区）については整備完了し、矢賀大州線ほか1路線については一部暫定整備で供用完了した。</p> <p>事業を継続する要素事業の内、長束八木線（4工区）は令和4年度より新たに創設された「交通安全対策補助（通学路緊急対策）」に移行し、より重点的な支援を受けながら事業を進めることとした。また、中筋温品線、吉島観音線ほか1路線及び段原蟹屋線ほか1路線については、都市基盤となる骨格道路等の整備（3期）に移行し、引続き整備を行うこととした。令和3年度以降も引き続き広島都市圏における都市基盤となる骨格道路等の整備を行い、都心及び拠点地区相互を連絡し、都市内交通の円滑化や都市の防災機能の向上を図ることにより、快適で安全な市街地形成を促進する。</p> <p>整備効果の発現状況については、2つの定量的指標（拠点間の所要時間 地域における交通事故件数）で確認する。</p>	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	拠点間の所要時間を6分短縮させる。	
	最終目標値	18分
	最終実績値	21分
暫定整備を行うことで一定の短縮は図れたが、現時点で未供用の区間があるため最終目標値までは達成できなかった。引き続き、中筋温品線（1工区）の全線供用に向けて事業を推進することで効果が発現する見込みである。		
2	地域における交通事故件数を現況より減少させる。	
	最終目標値	88件
	最終実績値	21件
目標を達成した。		